

環影審第 8 号
平成 29 年 1 月 6 日

埼玉県環境影響評価技術審議会
会長 山本 貢平 様

埼玉県環境影響評価技術審議会
小委員会委員長 松橋 啓介 (公印省略)

(仮称)越谷都市計画事業吉川美南駅周辺地域土地区画整理事業
環境影響評価準備書について(報告)

標記準備書について調査及び審議しましたので、別添のとおり報告します。

事務局 埼玉県環境部環境政策課
企画・環境影響評価担当 小野 大石
電 話 048-830-3041
F A X 048-830-4770
E-mail a3010-03@pref.saitama.lg.jp

小委員会報告

当小委員会は、埼玉県環境影響評価技術審議会から付託された（仮称）越谷都市計画事業吉川美南駅周辺地域土地区画整理事業環境影響評価準備書について調査及び審議したので、下記のとおり報告する。

記

1 小委員会委員（ は委員長）

秋	田	典	子	委員
井	上	智	美	委員
加	藤	み	か	委員
金	子	弥	生	委員
田	中	敦		委員
畠	瀬	頼	子	委員
松	橋	啓	介	委員
山	本	貢	平	委員

2 調査及び審議経緯

平成28年10月3日に吉川市から、（仮称）越谷都市計画事業吉川美南駅周辺地域土地区画整理事業環境影響評価準備書が提出された。

平成28年11月7日（月）に第1回小委員会を開催し、準備書に対する事業者説明及び委員からの質疑応答を行った。

平成28年11月28日（月）に第2回小委員会を開催し、小委員会意見を集約した。

3 小委員会意見

準備書に対する小委員会の意見は、別紙のとおりである。

(仮称)越谷都市計画事業吉川美南駅周辺地域土地区画整理事業環境影響評価

準備書に係る埼玉県環境影響評価技術審議会小委員会の意見について

(仮称)越谷都市計画事業吉川美南駅周辺地域土地区画整理事業に係る環境影響評価の実施に当たっては、下記の事項を勘案して、環境影響の調査・予測・評価、環境保全措置及び事後調査を検討すること。

記

1 大気質、騒音、振動

新たな幹線道路の整備は行われな一方、産業ゾーンへの企業の進出や吉川美南駅東口地区の市街地の整備により交通量の増加が見込まれ、渋滞の発生が懸念されるので、車両誘導等の対策を講じること。

特に主要地方道越谷流山線及び中曽根こ線橋での交通流や交通量の変化に留意すること。

2 低周波音

施設の稼働に伴う低周波音の影響について、整合を図るべき基準として「低周波音問題対応の手引書」における参照値を用いているが、参照値は環境アセスメントの環境保全目標値ではないので、「低周波音の測定方法に関するマニュアル」に示された科学的知見に基づいて評価すること。

3 土壌

本事業は農地を市街地に改変しようとするものである一方で、周辺には農地が残されていることから、造成工事等による事業実施区域外への土壌の流出をできる限り抑制し、切り回しをする用水路等への影響を低減すること。

4 地盤

圧密沈下が収束するのに要する期間が最大 100 か月と予測されていることから、盛土の圧密沈下の促進を行う場合は、事業実施区域の地質を精査し、適切な工法を採用すること。

また、採用した工法による圧密沈下の沈下量及び沈下の範囲を予測し、それらを踏まえて工事計画を策定すること。

5 植物及び生態系

希少植物の移植先については、ヨシなどの優占による移植対象種の衰退が懸念されることから、継続的に植生管理を行うこと。

特にキタミソウの移植先については、キタミソウの生育条件が確保されるよう、移植先となっている水路の水位変動に留意すること。

6 動物及び生態系

ホンドタヌキの移動経路については代償措置が計画されているが、その一部が道路などによって分断されているので、すみかと餌場がネットワーク化されるように設定すること。特に道路と交差する箇所については、アンダーパス及び誘導フェンス等を設置してロードキルを防止すること。

7 温室効果ガス

自動車交通の発生に伴う温室効果ガス排出量の予測における走行距離の設定が過小になっているので、適切に行うこと。

また吉川市環境保全指針に則り、環境保全措置として、自家用自動車などの交通量の抑制に努めること。